



東京立川ロータリークラブ

2018.10.12 第2812回 例会

# Weekly Report



本日の卓話講師 柿崎明二様とRYLAセミナー受講生 小泉佑平様を囲んで

## 【司会進行】

SAA委員会 小松 剛委員

【開会点鐘】 清水淳一会長

【ロータリーソング斉唱】

『奉仕の理想』

【お客様の紹介】 清水淳一会長

【会長挨拶】 清水淳一会長

【幹事報告】 平井洋孝幹事

【RYLAセミナー受講生紹介】

地区RYLA委員会 木村真人委員

【委員会報告】

親睦ゴルフ会 磯部弘志さん

【ニコニコ発表】

親睦委員会 安藤永一副委員長

【出席率の発表】

出席委員会 米田典弘委員

会 員 数	114名
出席義務会員	106名
出席免除会員	8名
当日出席者	97名
出席免除会員の当日出席者	5名
出席率	87.38%
9月28日の出席率	85.98% → 93.45%

【卓話講師紹介】

プログラム委員会 益子悦雄委員長

【卓話】 一般社団法人共同通信社

論説委員 兼 編集委員 柿崎明二様

【閉会点鐘】 清水淳一会長

## 【会長挨拶】 清水淳一会長

去る9月28日、第8回多摩中グループ協議会が開催されました。大日方 真ロータリーの友地区代表委員がおみえになり、ロータリーの友の活用についてご説明がありました。また、地区インターシッ プ北村副委員長と都立第五商業高等学校佐藤校長、吉澤進路指導の先生がおみえになり、インターシッ事業の説明と協力のお願 いがありました。次にガバナー公式訪問でガバナーからお話があり ました。ロータリーデーについて多摩中グループは青少年事業、特 に小中学生を対象とした事業が多く行われているとの事で、青少年を対象とした内容に することになりました。さて、今年度始まって3ヶ月余り経ちましたが、例年になく災害が多 いと思います。西日本豪雨災害、台風21号、北海道大地震、台風24号と大きな災害が続 いております。先の9月29日土曜日に陸上自衛隊立川駐屯地において、小雨が降るなか 立川防災航空祭が行われました。当クラブもご招待を受けクラブを代表してVIP待遇のな か行ってまいりました。立川駐屯地は昭和48年5月に開設され、今年で45周年を迎えるそ うです。今年の防災航空祭は、立川広域防災基地連絡協議会と連携を図りながら準備を してきたそうです。立川広域防災基地連絡協議会とは、陸上自衛隊東部方面航空隊、国立 災害医療センター、東京消防庁、警視庁等からなる組織です。オープニングセレモニーが 始まり、東部方面航空隊隊長兼駐屯地司令と清水立川市長がヘリコプターで登場です。 その他に立川警察署長、立川消防署長が歩いて登場しました。駐屯地司令、清水市長の 挨拶が終わり陸上自衛隊、東京消防庁、警視庁のヘリコプターの編隊飛行、習志野空挺団 のパラシュート降下と続き、自衛隊、消防庁、警視庁の合同災害救助活動の演習で陸上から、空から救助活動を行います。中でも化学工場で事故が発生したと仮定しての救助活動 は驚きました。まず自衛隊の化学物質の分析車が現場においてどのような化学物質が散 乱しているか調べ、その後除染車が除染しに行きます。そして、消防庁のハイパーレス キュー隊によるレスキュー車の中で、救助した人の除染をシャワーが出てきてするの です。いくら演習とはいえ迫力があり、頼もしさを感じました。とは言え、災害が起こらないの が一番ですが、11月30日に陸上自衛隊立川駐屯地で移動例会を予定しております。是非、皆さん楽しみにしててください。日頃から、「備えよ常に」です。敬礼。



清水淳一会長

## 【お客様の紹介】 清水淳一会長

柿崎明二様(一般社団法人共同通信社 論説委員 兼 編集委員)

小泉佑平様(RYLAセミナー受講生)

2018~2019年度 RIテーマ



2018~2019年度  
国際ロータリー会長  
バリー・ラシン

インスピレーションになる

2018~2019年度 クラブテーマ

「一期一会  
ロータリー」

東京立川ロータリークラブ  
会長 清水淳一



司会進行  
小松 剛委員



ニコニコ発表  
安藤永一副委員長



出席率発表  
米田典弘委員

## 【幹事報告】 平井洋孝幹事

●ガバナー月信を各テーブルに配布しました。



## 【RYLAセミナー受講生紹介】 地区青少年委員会RYLA委員会 木村真人委員

過日10月6～8日、国立青少年記念総合センターにおきまして、第15回RYLAセミナーが開催されました。このロータリー青少年指導養成プログラムは、国際ロータリーの正式な青少年プログラムとなっております。青少年のリーダーシップと自覚育成に主眼を置いたこのプログラムは、若い人達が新しい友人を作り、楽しみながらリーダーシップのスキルを磨くセミナーで、当日は第2750地区より国籍を問わず40数名の受講者がありました。初日は大変緊張されていましたが、様々な研修を経て最終日には晴れ晴れとした笑顔があり、大変感銘を受けました。当クラブから紹介頂きました、益子不動産より小泉佑平さんが受講されましたが、その時の感想をお話し頂きたいと思えます。



## RYLAセミナー受講生 小泉佑平様

この度はRYLAセミナーへのご推薦、スポンサーをしていただき誠に有難うございました。自分は去年の11月より益子不動産にて仕事をしており、まだ1年も経っていませんが、ようやく仕事にも少し慣れてきたかというこのタイミングでの参加となり、大变得るものが多く有難く思っております。最初は社長から研修の話があった時に、知らない人達との2泊3日の研修という事で躊躇しましたが、こういった機会も普段の仕事では得られない貴重な機会だと思い、参加しました。その事で何かが変わったかと言われると、正直実感も湧いておりませんが、同年代の仲間たちと話をしたり意見を交わす経験を得て、楽しかったという事が一番です。そして普段聞く事が出来ないような方の講演が聞けたり、仲間達との会話で、更に自身に色々な影響があったと思えます。この受けた影響を自分の中で消化して、今後活かしていけたらと思えます。今回は有難うございました。



## 【委員会報告】 親睦ゴルフ会 磯部弘志さん

事務局から既に配信されておりますが、第97回親睦ゴルフ会市村杯でご案内です。12月6日(木)、狭山ゴルフクラブにて予約しております。その後伊勢丹バンケットにて懇親会兼忘年会を予定しております。皆様のご参加お待ちしております。



## 【ニコニコ発表】 親睦委員会 安藤永一副委員長

- 清水淳一会長 卓話講師でいらっしゃいます、一般社団法人共同通信社論説委員兼編集委員 柿崎明二様、お忙しい中お越し頂き有難うございます。卓話楽しみにしております。RYLAセミナーの受講生であります、株式会社益子不動産 小泉佑平様、セミナーお疲れ様でした。立派な成果発表を拝見させて頂きました。
- 平井洋孝幹事 柿崎明二様、卓話楽しみにしておりました。小泉佑平様、RYLAセミナー受講お疲れ様でした。
- 村野安成さん 大雨でしたが、大変楽しく意義のあったBBQでした。昭島の事務局員も喜んでいました。親睦委員の皆さん、有難うございました。
- 豊泉幸夫さん 各種御祝い、有難うございます。
- 益子悦雄さん 弊社社員の小泉佑平が、RYLAセミナー研修プログラムを受けて帰ってきました。自信が付いたようで、堂々としてきました。お世話になりました。
- 鈴木 寛さん 結婚記念のお祝いを頂き、有難うございます。
- 木村真人さん 過日、十月六日、七日、八日に国立オリンピック記念青少年総合センターに於きまして、国際ロータリー第2750地区第15回RYLAセミナーが開催され、当クラブから推薦された小泉佑平様が受講されました。三日目のAwards授与式には、清水会長ならびに中島青少年奉仕委員長にもご臨席賜り、感謝申し上げます。又、本日小泉佑平様の御来訪を祝して。
- 中島孝昌さん 清水会長、木村真人さん、益子さん、RYLAセミナー、有難うございました。小泉佑平さん、お疲れ様でした。
- 渡邊達也さん 誕生記念月のお祝い、有難うございました。
- 岩田明彦さん 先日は、誕生日の記念品をいただき、有難うございました。
- 親睦委員会一同 先週行われました親睦BBQには、お足元の悪い中40名を超える方々にご参加頂きまして、誠に有難うございました。

本日合計 50,000円 本年度累計 966,000円

## 【卓話講師紹介】 プログラム委員会 益子悦雄委員長

本日の講師であります柿崎明二様は、一般社団法人共同通信社にて論説委員をされております。テレビでのコメンテーターとしても活躍されていますので、ご存知の方も多



と思います。1961年秋田生まれで、早稲田大学文学部をご卒業され、1988年に共同通信社に入社されました。1993年より政治部で首相官邸、外務省、各政党の取材を担当されてきました。著書も多数あり、「検証、安倍イズム」「胎動する新国家主義」「次の首相はこうして決まる」等があります。柿崎様のご長女が第2750地区の青少年プログラムでアメリカに派遣され、三女が同プログラムにてメキシコに派遣されている関係で、自身の家族とも交流させて頂いております。

## 「安倍超長期政権と日本政治」

柿崎明二様

ただいま益子さんからご紹介頂きました通り、長女と三女がロータリーのプログラムで海外派遣させて頂きまして、大変有難く思っております。長女は大学を卒業して国内におりますが、英語を必要とする職業についておりますが、今後更に活躍して欲しいと思っております。



内閣改造でこのところ講演が多くありましたので、その線でお話しようと思っておりましたが、最近の内閣改造が面白くない事もあり、また在庫一掃セール内閣というような呼ばれ方をしております中で、話しを進めてまいりますと気が滅入ってまいりますので、少し大きな括りでの話しをさせて頂きたく思いました。今回は安倍総理の事というよりも、日本の今を取り巻く状況が、安倍政権でどうなったかという事で、最近幾つかの分かり易い事例がありますので、それを交えてご紹介したいと思います。安倍総理の外交は、地球儀を俯瞰する外交であると言っていますが、元々地球が大きいのでそれを俯瞰するために地球儀が存在するわけで、その地球儀を俯瞰するというのは過剰修飾だと考えています。ですので本日はまず「地球儀を俯瞰する外交の陥穽」と書かせて頂きました。一つ典型的なのは、この前の総裁選の最中ロシアでのフォーラムに参加して、プーチンと習近平とシンポジウムをしましたが、その時のウラジミールの発言は衝撃的で、前提条件なしに年内に平和条約を締結しようとする提案に対して、安倍総理としては反論せずとも日本の基本的立場を表明しておかなければならなかったと思いますが、帰国してから総理が「領土問題を解決したいという意思の表れである」という趣旨の発言をしていました。もしそうであるなら、

その場で言わなければならなかったと思いますし、この状況はかつての自民党であれば大問題になっていたと思われまます。そしてそれ自体が政局の目玉になっていたとも思われまます。実は伏線がありまして、昨年の予算委員会での辻本清美議員の質問で、北方領土にミサイルが配備された事に対して、前提条件が崩れた事をどうするのかと岸田外務大臣に向けたところ答えに窮し、安倍総理が出てきました。そこで「元々北方領土にはロシア兵がいるのだ」という事を話してしまったのです。日本固有の領土にロシア軍がいる事を認めてしまったという事で、だからミサイルの配備も今更さほど問題ではないというような発言をし、これも大問題になると思いましたが、大した問題にはなりません。そしてその時は、閣僚の一部からも辻本議員はよく言ったという内容を聞きました。韓国と中国との領土の問題に関しては厳しく対応しますが、今回のロシアとの北方領土問題に関しては対応の甘さがあった事から、プーチンの今回のような発言が出てしまったと言えます。又それに近い事が他にもあり、トランプ大統領がFMS(対外有償軍事援助)で、日本が軍事装備品を購入するという事を記者会見で堂々と話してしまうという事です。確かに実態としてはその通りですが、かつては水面下の話しであって、その事を我々が突いて政府が独立国であるからと否定するという構図だった事が、今や否定もせず明らかにになってしまうのです。実はこれも伏線があり、3年ほど前に安倍総理がアメリカに行った際に、上下両院の国会議員の前で安保法制を同年9月までに整備するという事を話してしまいました。この時国内では整備の時期が決まっていなかった状況だったのにも関わらず、そういった発言が出てしまったのです。これも大きな問題になってもおかしくない状況でしたが、大きな問題にはなりません。また安倍総理の一丁目一番地の北朝鮮拉致問題ですが、かつての交渉は国交正常化の最後に拉致被害者を出してくれば良いという出口戦略だったにもかかわらず、その戦略を変えて交渉前に拉致問題を解決せよという方向転換をしていて、それが又崩れて出口に戻ってしまってきています。しかし横田めぐみ様のご両親はもう高齢である事から、手段は少しでも良いのでとにかく早く返して欲しいという状況もあるからかもしれません。この間の浪費は約20年間でありまます、これは方法論の転換を否定しているのではありません。間違いは起こるもので、それを訂正する事が問題だと言っているのではなく、自民党内で全く筋論のある批判が出なくなってしまう事が一番の

問題だと思っています。そして総裁選での党員票は安倍総理が55%、石破氏が45%も集まってしまい、それに対して国会議員票については82対18という事で、とにかく勝つ方に乗かってしまう癖のようなものがついてしまっているし、今後もそうなると思われる。以前の自民党は四六時中派閥の権力闘争が続き、それを小選挙区制という事で2年から3年にしましたが、それだけでなく野党との政権交代をシステム化したのですが、それも形骸化してしまいました。また2015年の総裁選では野田聖子氏が推薦人を集められず無投票となってしまい、2012年の政権復帰時に当選した三回生議員は総裁選を見ていないという状況になりました。そして今回の総裁選となりましたが、今回ほど低レベルであった総裁選は見た事がありません。低レベルといっても稟議的にとりか知的にとりかという事ではなく、一切に喧嘩にすらなっていないという事なのです。要は自民党内に多元性や相互のチェック機能がなくなってしまうという事が問題で、これがしっかり機能していれば、総裁選の時の国会議員票と党員票にあれ程の開きは出なかったはず。実はこれにも伏線があり、安倍陣営の出陣式に際して国会議員の33%が代理出席だった事です。普通総裁選であればほぼ自身が出てくるのが当たり前だと思いますが、これは自民党の空洞化の象徴だと思いますし、議員としては最終的には「選挙」が重要な訳で、それすら弱くなっていると思います。ですので、かつての民主党のような状態になってしまうのではないかとさえ思いますし、むしろストレステストに晒された民主党議員の方が、腹が据わっている議員が多いのではと思ってしまうほどです。また自民の三回生が議員総数の40%程を占めておりますが、そもそも戦った事もなく今後戦っていけるのかも分かりませんし、自分に当事者意識もないのです。ですから森友・加計学園の問題が出た時も、他人事のように考え野党が悪い、メディアが悪いという事に主眼を置いており、内側からの批判がないままになっているのです。結果、安倍総理が自分で自分を律する事が出来なくなってしまっていると思います。自民党が以前と決定的に違うのは、何か問題が発生した時に、自民党内からも厳しい攻撃や批判が出ていた

から総裁は自分を律する事が出来た、しかし今は全くそういった心配が無くなってしまっている事です。また安倍昭恵夫人の行動にもかつて問題があり、その背後に中国や北朝鮮の関係者がいたらどんな事になっていたかと思うと非常に危険であったと言わざるを得ず、総理がいくら警戒をしても防ぎきれないという事で、これも以前の自民党であればファーストレディの言動に対して批判が出ていたはずですが、今は全く問題になっていません。また石破殲滅作戦ですが、以前は石田氏と片山さつき氏は石破氏を推していたにも関わらず、この6年間で安倍総理支持にまわり今回閣僚にまでなっていて、それはこの二人だけなのです。結果として閣僚待機組はその事を良く理解されていて、途中で支持を変えればそれでも良いのだという石破派へのメッセージでもあるといえます。そして今回石破派への配慮がされているような事が言われていますが、全くそんな事はなく、本当に配慮されているなら閣僚就任適齢期の方を登用するはずですが、そうでない方を抜擢したという事は石破派潰しの最たるものだといえます。要は今回意思を持って総裁選で戦うという意思表示をした石破陣営がいたという事で、彼らは総裁選後に干される事も覚悟していた中での戦いだった事に意味があるのだと思っています。そして今の自民党一強によって自分自身さえも律する事が難しい巨体となってしまった今、アベノミクスも出口を間違えると大変な事になってしまうと思われ、経済的にも影響が出てきてしまうと思いますので、今自民党内で正反対の議論をする事も必要だと思います。官邸主導というというのは一見良いように見えますが、ごまかしや修正が効きませんので、これからの3年間で非常に重要になるかと思えますし、来年の参議院選挙への影響も大きいと思われます。そして今や野党は立憲民主党が第一党となって連合も一体となっており、共産党との離別を意味しているという点においては、新しく固まってきた体制であります。そしてもう一つ、沖縄の県知事選挙が先日ありましたが、公明支持層の3割が玉城氏側に投票したという事実があるという事で、今後の選挙でも自民が弱くなる状況が考えられる、という事が自分の見立てです。

事務局／東京都立川市曙町2-34-6 小杉ビル8階  
【TEL】042-525-4046 【FAX】042-529-2666  
【HP】<http://www.tachikawa-rc.org/>  
【E-mail】[ttrc8082@sepia.ocn.ne.jp](mailto:ttrc8082@sepia.ocn.ne.jp)

例会場／東京都立川市曙町2-40-15 パレスホテル立川  
TEL：042-527-1111  
例会日／金曜日 12：30点鐘  
会長／清水淳一 幹事／平井洋孝 会報担当者／清水督司委員